

キャラクター名  
ヘルガ=キルンシュタイン

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	CEO
	ハヌマーン					
オプション			年齢	18	性別	女
覚醒	感染	衝動	破壊	初期侵食率	33	%
出自	天涯孤独	経験	永劫の別れ	邂逅	ビジネス	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	6	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
サイバーアーム	白兵	5r+11	5	Lv+3		
特殊装甲義肢	白兵	5r+11	8	Lv+9		白兵判定+1D

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
UGNボディーマー		8			

所持品	
情報収集チーム	
コネ:手配師	
使用人	

合計装甲: 8    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
秘密兵器	P	N		
両親	P 遺志	N 隔意		
神城早月	P 尊敬	N 不信心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 14    残り財産P: 8

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
サイバーアーム	1		常時	至近	自身	自動		
効果:	素手データ変更、侵蝕率基本値+3							
コンセントレイト:ハヌマーン	3	2	メジャー					
効果:	C値-[Lv]							
吠え猛る爪	4	2	メジャー	武器		対決		
効果:	装甲値無視、攻撃力-[5-Lv]							
ベーシックリサーチ	1	1	メジャー					
効果:	判定ダイス+[Lv+1]個							
援護の風	5	2	オート	視界	単体	自動		
効果:	判定直前に使用、その判定に+[Lv]D、R1回							
フルインストール	3	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	100↑	
効果:	R間判定ダイス+[Lv*3]個、シナリオ1回							
リミットリリース	1	6	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果:	判定直前に使用、C値-1、シナリオ1回							
電子使い	★							
効果:								
軽功	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

UGN箱根支部に所属するエージェント。  
 艶やかなブロードを靡かせる、ヨーロッパのお嬢様のテンプレートのような見た目をしており、実際言葉遣いや立ち居振る舞いもお嬢様然としている。一見すると、現場にいるより屋敷でエージェントたちに指図するほうが似合っているような少女だが、その実高い白兵戦闘能力をもっている。特に事故で失った両腕に代わり装着されている装甲義肢から繰り出される打撃は、相手の守りを打ち抜き破壊する鎧崩しの一撃となっている。かつては見た目通りの資産家の家で令嬢として生活していたが、金銭を目的としたFHIに所属することもできないチンピラのようなオーヴァードの襲撃で両親と妹は殺され、自身も両腕を失う重傷を負う。  
 そんな彼女を助け、保護したのがUGNだった。事故に際して覚醒していた彼女に力の使い方を教え、UGNの理念を、人とオーヴァードの共生を説いた。それに感化された彼女は自ら訓練を受け入れ、エージェントとなり、同時に親が残した事業を引き継ぎ、UGNに資金を提供することで彼らの助けとなろうと考えた。  
 ……とは言うものの、彼女は性格的に生粋のブルーワーカーであり、事務や経営に関しては両親が存命だったころから仕えてくれている執事に一任し、己はエージェントとしての活動に専念している。なので、自由に使えるお金が少ない。  
 性格はやや傲慢でプライドが高いが、努力を怠らず、全力を尽くしての敗北であれば深く負けを認める器も持ち合わせる。